

厚生労働科学研究費補助金  
新型インフルエンザ等新興・再興感染症研究事業  
(新興・再興感染症に対する革新的医薬品等開発推進研究事業)  
分担総合研究報告書

病原体及び毒素の管理システムおよび評価に関する総括的な研究(H24-新興-一般-013)

ヒトに病原性のあるズーノーシス起因病原体の解析とリスク分類の研究

研究分担者 奥谷晶子 国立感染症研究所獣医科学部・主任研究官

研究要旨:

発生が稀だが、公衆衛生上極めて重大な影響を与えうる動物由来感染症(Zoonoses)の海外および国内での発生状況に関する調査を行った結果、新興・再興感染症としてヒトに重篤な症状を引き起こす可能性のある細菌性およびウイルス性の疾病に関する発生リスク判定のための基礎的発生動向データの蓄積ができ、継続したモニタリングの必要性が明らかとなった。

A. 研究目的

ヒトに重篤な症状を引き起こす可能性のある動物由来感染症の海外および国内での発生状況を調査し、発生リスクに応じた備えを可能とするため、PubMed を始めとした各種発生報告からのデータ収集と、対象となる疾病毎に発生リスクを評価し、万一の発生に備えを行うことが目的である。

B. 研究方法

1) PubMed を筆とする各種の発生動向調査によるヒトに病原性のあるズーノーシス起因病原体の検索。

PubMed による細菌性ズーノーシスの発生報告を収集するための文献検索は以下のキーワードを組み合わせて調査集計した。ただし、最近の発生について調査するため、2000 年以降の文献に限定した。抽出された文献を病原体毎に分類し、発生報告数が 3 報以上の病原体についてリスク分類を行った(図 1)。検索キーワード「zoonoses」「bacterial」「human」「patient」「animal」

また、ProMed や OIE からの報告による発生動向調査も同時に行い、網羅的な発生動向調査システムについて検討した。

### C. 研究結果

平成 24 年度からの調査において、発生が稀な新興・再興感染症の発生報告としては文献ベースの検索である PubMed が最も有効であると思われた。事例報告も充実しており、検索も容易であった。一方、OIE あるいは ProMed による発生報告では既に監視伝染病としてリストアップされている炭疽、ブルセラ症、鼻疽、類鼻疽といった既知の疾病発生動向は追跡できたものの新規疾病への対応には限界があることが明らかとなった。

### D. 考察

新興・再興感染症のなかでヒトに重篤な病原性をもつ細菌性およびウイルス性の動物由来感染症は様々な疾病の発生が報告されていることが明らかとなった。これらの中には病原性メカニズムや感染源、感染経路が明確ではないものも複数あることからの確なりリスク管理が求められる。

### E. 結論

動物由来感染症は数多く発生しているが、新興・再興かつヒトへの重篤な病原性を示す可能性のある疾病の発生頻度は低いレベルであり、日本国内での発生もみられなかった。一方、輸入感染症として国内に侵入する可能性は常にあるので継続した発生動向モニタリングおよび的確な発生リスク管理が必要であり、それを可能とするシステムの構築を行うことが重要であると思われる。

### F. 健康危険情報

特記事項なし

### G. 研究発表

なし

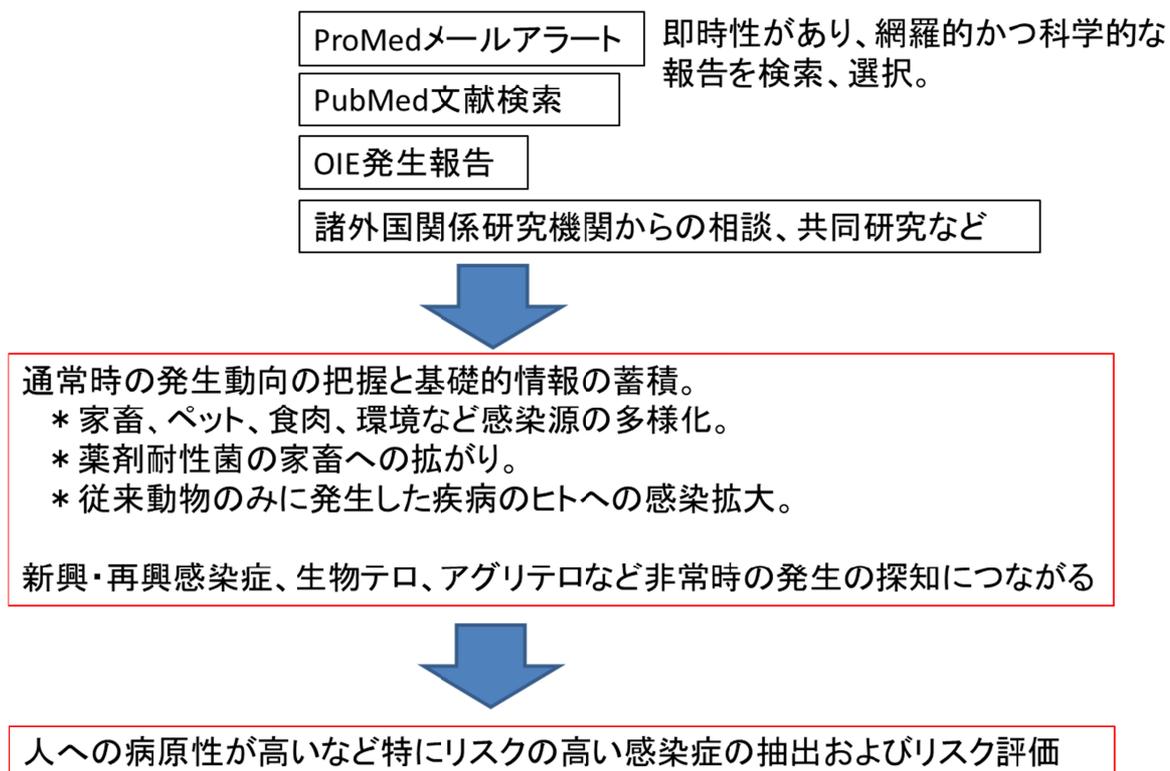
### H. 知的財産権の出願・登録状況

なし

図を挿入

図 1. 細菌性およびウイルス性新興・再興動物由来感染症の発生動向の把握のためのフローチャート

### 細菌性およびウイルス性新興・再興動物由来感染症の発生動向の把握



継続した情報収集により平時の傾向および流行地域の絞り込みなどが把握可能となる

